

埼玉県内全域におけるイヌ・ネコに関する寄生虫保有状況（2021年）

埼玉県動物指導センター

1 はじめに

エキノコックス *Echinococcus multilocularis* をはじめとする動物由来感染症対策の観点から、県内（政令市、中核市は除く）におけるイヌおよびネコの寄生虫侵淫状況を調査したので、2021年の結果について報告する。

2 検査材料および方法

2021年1月から12月までの期間に当センターに収容されたイヌ5頭、ネコ13頭の直腸便を採取し、寄生虫検査を実施した。寄生虫検査は直接薄層塗抹法、ホルマリン・エーテル法（MGL法）、シヨ糖遠心浮遊法および新鮮便の直接塗抹法を併用した。

3 結果

(1) イヌについて

イヌ全体（5検体）のうち、寄生虫の陽性数は0頭、陽性率は0%であった。

(2) ネコについて

ネコ全体（13検体）のうち、寄生虫の陽性数は3検体、陽性率は23.1%であった。

虫卵は、マンソン裂頭条虫卵が1検体（7.7%）、猫鉤虫卵が1検体（7.7%）、猫回虫卵が1検体（7.7%）、検出された（表）。また、ネコにおいて複数の寄生虫類に重複感染した検体は確認されなかった。

表 ネコにおける糞便検査結果

		オス (n=7)	メス (n=6)	合計 (n=13)
条虫類	マンソン裂頭条虫	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (7.7%)
線虫類	猫鉤虫	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (7.7%)
	猫回虫	0 (0%)	1 (16.7%)	1 (7.7%)
陽性頭数		0 (0%)	3 (50%)	3 (23.1%)

4 まとめ

調査は、エキノコックスの本県への侵入に関する疫学調査の一環として実施している。エキノコックスは検出されていないが、様々な寄生虫類の感染が明らかとなり、ヒトに感染する動物由来感染症の原因となるものも確認された。当センターでは寄生虫侵淫調査を継続し、ホームページ掲載等で情報発信を行い、県民への動物由来感染症予防の普及、啓発に努めていきたい。